



1983年6月、デンバーで開催された第5回全米レズビアン・ゲイ保健会議(兼第2回全米エイズフォーラム)で横断幕を広げる11人のエイズ活動家

UNAIDS FEATURE STORY

デンバー原則から40年

2023年6月26日

以下の記述は、*The Sero Project* のショーン・ストラブ (Sean Strub) 元事務局長による『*Self-Empowerment 運動略史*』に基づくものです。

先見の明のある活動家たちが40年前、デンバー原則のマニフェスト(宣言文)を作成し、エイズ対策にHIV陽性者が積極的に関与することの重要性を示しました。GIPA(HIV陽性者のより積極的な関与)原則に向けた歴史的な第一歩として、HIV陽性者が受け身ではなく、エイズ対策に全面的に関与する主体として意味のあるかたちで意思決定に加わることを促したのです。

1983年6月に発表されたこの宣言は、HIV陽性者が自らの力を切り開くエンパワーメント運動の起点となりました。セロ・プロジェクトのショーン・ストラブ元事務局長が書いているように、デンバー原則は『HIV陽性者が自らの生命と生活に重大な影響を与える意思決定に参加することは、基本的かつ奪うことのできない権利である』と主張した歴史的な文書です。この言葉は、過去40年にわたり、HIV陽性者に勇気を与えてきました。声明は次のように述べています。

《「敗北」を意味する「犠牲者 victims」というレッテルを私たちに張ろうとする試みを私たちは非難します。また、「患者」という言葉も、受動性や無力感、他者にケアを依存する存在を暗示するものです。たまたまいまは患者と呼ばれているものの、私たちはPeople with AIDS(エイズとともに生きる人)なのです》

デンバー原則は、HIV陽性者の権利と責任について述べ、医療の専門家や家族、友人に向けて提言を行っています。

私たちの世界は大きな変化を遂げてきました。エイズ対策の面でも、様々な分野で進歩が見られています。それでも、スティグマや差別、根強く広がる不平等は、HIV 陽性者や HIV の影響を受けている何百、何千万という人たちの生活に被害を及ぼし続けているのです。では、デンバー原則は過去 40 年、HIV から最も大きな影響を受けた人たちの生活にどんな変化をもたらしたのでしょうか？ 私たちの時代が直面する新たな課題に対応するため、GIPA 原則を見直し、更新する必要があるのでしょうか？ 主要な HIV 活動家、および国連合同エイズ計画 (UNAIDS) は次のように述べています。

Global Action for Trans Equality (GATE)、エリカ・カステラノス (Erika Castellanos) 事務局長

「デンバー原則は GIPA 政策の基礎であり、私たち HIV 陽性者を対策の中心に据え、私たちに声を与えてくれました。テーブルの席を確保してくれました。でも今やそれだけで十分ではありません。テーブルに着く立場から、テーブルのリーダーとなり、HIV 対策のリーダーへと進化する時が来ているのです」

MPact Global のアレックス・ガーナー (Alex Garner) コミュニティ対応部長

「デンバー原則は、HIV 陽性者の権利確保運動の転換点でした。40 年の間に世界も、私たちのコミュニティも、そして流行も根本的に変わっています。私たちの権利を守るには、HIV 陽性者 (PLHIV) が直面する共通の課題を明確に理解しなければなりません。この病気の影響を最も大きく受けてきたのはキーポピュレーションです。そしてデンバー原則の進化には、私たちのコミュニティが直面する課題、および過去 42 年間、パンデミックを広げてきた構造的なホモフォビア、トランスフォビアへの対応を統合しなければならないのです。セクシュアリティを追求し、自分の体を管理することは PLHIV の基本的な権利です。デンバー原則のアップデートには、ウイルス量にかかわらず、HIV 陽性者のセクシュアリティをはっきりと認めていくことが求められています。」

GNP+ (世界 HIV 陽性者ネットワーク) 理事会のロドリゴ・オリン共同議長

宣言から 40 年を経たいまも、HIV 陽性者は患者として扱われています。治療法や自らの身体への影響について何の発言もできず、受け身の存在にすぎないかのような扱いです。世界中で数多くの人たちの診断がいまなお遅れています。HIV の予防と治療のツールを利用できる先進国においてすら遅いのです。医師や研究者とともに、コミュニティへの対策や HIV ケアの枠組みを設計するために、GIPA 原則を効果的に導入し、適用するという課題は、依然として残されたままの状態です。世界中のどこにいても、HIV 陽性者の生活の質を向上させていけるようにするには、あらゆるレベルの HIV 研究に陽性者が関与する必要があります。

ジョイス・オウマ Y+ Global アドボカシーとキャンペーン担当

デンバー原則について私は学んだばかりです。これまでの活動を通じ、経験豊富な人たちから、私や他の若者は、いま HIV と共に生きていられるのは幸運だとよく言われてきました。スティグマが最小限に抑えられ、それぞれの人の事情に合わせた分化型のケアが提供され、抗レトロウイルス治療が受けられるようになったのです。この機会に、PLHIV が歩んできた長い道のりを思い返しました。

デンバー原則は多様な背景を持つ HIV 陽性者が意味のあるかたちで対策に関わるようになる出発点でした。HIV 陽性の若者として、私たちは GIPA 原則に基づき、過去の過ちを繰り返さないよう、主要な意思決定の場に若者

が倫理的かつ意味のあるかたちで参加することを求めてきました。いまは HIV 陽性者のネットワークを広げ、大きなプラットフォームを構築することもできるようになっています。デンバー原則は 1983 年当時も今も、私たちにとって重要です。40 年の中で祝うべきマイルストーンはたくさんあります。それでも HIV 陽性の若者が意味のあるかたちでなすべきことは依然として残っているのです。

HIV 陽性者が直面する現代の課題に対応するためにも、もういちどデンバー原則に立ち返る必要があります。私たちは体内のウイルス量を検出限界値未満に抑え、維持する役割を果たしています。それでも、感染率上昇の原因として若い PLHIV と LGBTIQ の人口集団は非難されているのです。クィアであること、HIV 陽性で生きていくことを想像してみてください。私たちすべてが、尊厳を持って生きられるようにする必要があります。

APCOM Foundation ミッドナイト・ポーンカセットワタナ (Midnight Poonkasetwattana) 事務局長

アジア太平洋地域のデンバー原則実施状況には大きなばらつきがあります。域内のゲイ男性など男性とセックスをする男性、トランスジェンダーの人たち、注射薬物使用者の HIV 陽性率は一般人口層より 5 倍以上高くなっています。2020 年ターゲットは達成できず、残念ながらほとんどの国やコミュニティが 2030 年のエイズ終結軌道には乗っていません。

キーポピュレーションおよび HIV 陽性者が解決策の一部を担えるよう保証し、キーポピュレーション主導、コミュニティ主導の組織、ネットワーク、サービスを適切に支援する資金を増やすには、政治のリーダーシップが必要です。

ペンシルバニア州ミルフォード市長で The Sero Project のショーン・ストラブ (Sean Strub) 前事務局長

デンバー原則は、HIV 流行を大きく超え、広範な影響を与えています。世界中で、生命にかかわる事態やスティグマの対象となる状況に置かれた人びとに対し、自らの人生に重大な影響を与える意思決定や政策決定に自らの主張を反映させるよう促したのです。HIV 流行の現状を反映し、他の状況についてもより広範に含めるためには修正が必要になるとしても、根幹となるメッセージは変わりません。デンバー原則の理想は過去 40 年にわたり、保健医療制度や政策、サービス提供に取り入れられてきました。その成果は目覚ましいものだとしても、いまなお始まりに過ぎません。変化はゆるやかにしか進まず、デンバー原則が示した根本的なパラダイムシフトには抵抗もあります。それでも、1983 年にデンバーのホテルの一室で始まった運動を止めることはできません。

RIBBON のヴァネッサ・ジョンソン (Vanessa Johnson) 共同事務局長

エイズ流行初期において、HIV 陽性の男性のグループが、あまりにも弱く、恐怖やスティグマ、およびその他の組織的な問題のために見過ごされていた人びとに声を与えました。その勇気ある努力に敬意を表します。

ほとんどの基礎的な文書や趣意書と同様、デンバー原則は、誰がリーダーシップをとるのかということに関わりなく適用すべきものです。40 年にわたって、私たちは国家としての米国のリーダーシップが、HIV 陽性の白人ゲイ男性から、アフリカ系アメリカ人/黒人、ラテン系アメリカ人、アジア系アメリカ人、ネイティブアメリカンなど人種的、民族的により多様化していく過程を目撃してきました。ジェンダー自認や性的指向、文化的表現と経験も含まれています。どの程度アクセス可能なのか、そのレベルはさまざまです。

RIBBON のリンダ・スクラグス (Linda Scruggs) 共同事務局長

デンバー原則 40 年にあたり、エイズ対策史に消えることのない功績を残したこの画期的文書に敬意を表します。私たちはいまなお、逆境に直面しながらも、スティグマや恐怖、差別により沈黙を強いられたコミュニティに声を与えた人びとの勇気に支えられています。

これらの原則は数え切れないほど多くの個人を支え、自らの権利を主張し、自分の人生を形づくることになる意思決定のプロセスへの参加を求める力を与えてきました。しかし、デンバー原則のビジョンを達成するための旅はまだ終わっていないことを認識しなければなりません。より公正で包摂的な社会を実現するには、声が届くだけでなく増幅させる必要があります。それは私たちが力を合わせて取り組むべき責務です。

この大きな節目にあたり、私たちは一致してデンバー原則の基本メッセージを支持しなければなりません。すべての人はその背景に関わりなく、尊重され、尊厳を持って生き、包括的なケアを平等に受ける権利があるのです。デンバー原則は、スティグマや差別、構造的不平等と闘う私たちの基礎となり、沈黙を拒否する運動に火を点けました。

Advocates for the prevention of HIV のイベット・ラファエル (Yvette Raphael) 事務局長

過去 40 年を振り返ると、デンバー原則がこれまでの対策と人々の生活に大きな影響を与えてきたことが分かります。それでも、私たちはなお、大きな課題を抱えていることを認識しなければなりません。革新的な変化の達成には、時間と揺るぎない献身が必要です。

アクティビスト、アドボケイト、リーダーとして、私たちが力を合わせれば、デンバー原則がすべての人の現実となる未来は実現できます。世界の HIV 陽性者が、先人たちのこのビジョンから恩恵を受けてきました。私たちが充実した生活を送ることができるのは、そのビジョンを通してであることを決して忘れてはなりません。宣言により、対策は意味のあるものになったのです。デンバー宣言が示した可能性によって、HIV 陽性の女性たちが長年にわたり、HIV 予防のための闘いのリーダーになってきました。

私たちは HIV との闘いの極めて重要な位置にいます。私たちの娘や子供たちも同じ課題に直面するかもしれません。いま焦点を当てるべきは HIV 感染の予防です。思春期の少女と若い女性の新規 HIV 感染予防に GIPA 原則を反映させる必要があります。GIPA 原則の認識と導入の状況が世界各地でこれほど大きく隔たっているのはどうしてでしょうか？ それは、一部の国では依然、HIV に感染した人を犯罪者とみなし、処罰を受けずにいる人を非難しているからです。

ICW (国際 HIV 陽性女性コミュニティ) Global のイマキュレイト・オウムギシャ (Immaculate Owomugisha)

デンバー原則は、私たちの生活に影響を与える意思決定には、私たち自身が参加するという権利の基礎となるものです。GIPA は、HIV 感染症への対応を推進するために、HIV 陽性者のコミュニティが活発かつ意味のあるかたちで参加する機会を創出してきました。しかし、根強く残る女性蔑視、およびさまざまに絡み合うスティグマと差別が依然として、HIV 陽性女性の存在を認識困難にし、HIV 陽性者のネットワーク、とりわけ女性のネットワークへの投資を妨げています。

セックスワーカープロジェクト世界ネットワーク (NSWP)、ニール・マカロック (Neil McCulloch) 上級政策担当

40年経った今も、セックスワーカーやその他のキーポピュレーションの状況はあまり変わっていません。依然として HIV の影響を不当に大きく受け、世界の新規 HIV 感染件数の 70%以上を占めています。セックスワーカーや HIV に感染していること、薬物使用、同性間の性行為、多様なジェンダー自認に対する犯罪化、執拗な暴力、スティグマ、差別が、デンバー原則で示された意味のあるかたちでの関与の実現を妨げています。人権に反する言説が増え、反動的な法律が再び作られ、利用できる資金はますます減っています。GIPA の原則を実現し、HIV 対策の方向性を真に変えていくために、私たちは構造的、社会的な障壁を打破し、キーポピュレーション主導の活動を確保していく努力を倍増させる必要があります。

UNAIDS のクリスティン・ステグリング (Christine Stegling) 副事務局長 (政策・アドボカシー・知識普及担当)

「デンバー原則は、HIV 陽性者が、自らの生活に影響のある政策やプログラムを策定する際に、意味のあるかたちでより積極的に参加できるようにすることの重要性をはっきりと指摘し、いまま機能しています。この画期的な原則の発表から 40 年を記念し、UNAIDS は今後もこの原則に従い、HIV 陽性者の意見と経験を流行終結に向けた対応の中心に据え、全力で取り組んでいく決意を新たにしています」

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団